

運転保守状況(その他)

ハフニウムフラットチューブ型制御棒の使用実績に関する調査結果について

他社の原子力発電所において、使用済燃料プールに保管している使用済ハフニウムフラットチューブ型制御棒1本に微細なひびが確認された事象(1)について、平成22年11月1日、原子力安全・保安院から同型の制御棒の使用の有無及び使用していた場合は安全性の評価等を実施するよう指示があった。

11月12日、同院へ島根原子力発電所においてはハフニウムフラットチューブ型制御棒を使用した実績がないことを報告。(中国電力(株)公表済)

(1) 他社の事象

平成22年11月1日に東京電力株式会社の柏崎刈羽原子力発電所7号機で発表された事象。

株式会社首藤バルブ製作所が製造した弁の設置状況等に関する調査結果について

平成22年10月12日の原子力安全・保安院からの指示に基づき、材料試験成績書がねつ造されていたとされる株式会社首藤バルブ製作所が製造した弁について、設置状況等の調査結果をとりまとめ、11月16日、同院へ報告。調査結果は以下のとおり。

調査の結果、島根原子力発電所2号機において、主変圧器に34台、起動変圧器に25台(計59台)の首藤バルブ製弁が設置されていることを確認。

また、建設中の島根原子力発電所3号機においても、主変圧器に同社製の弁が35台設置されていることを確認。

なお、島根原子力発電所1号機には、同社製の弁は設置されていなかった。

これらの弁の安全重要度はクラス3または対象外、耐震重要度はCクラスのみであり、すべて駆動装置を持たない手動弁で、これまでの運転実績および対象弁の点検結果に異常は認められず、安全性に問題がないことを確認。

また、これらの弁は、安全重要度等が低いことから、材料試験成績書を必要とするものではなく、社内規定に添った調達管理が実施されていることを確認するとともに、他社において確認されているねつ造の事実も認められていない。

なお、今回の調査で設置を確認した首藤バルブ製弁については、安全性に問題はないものの、対象弁全数について計画的に取替を行うこととする。(中国電力(株)公表済)